

塩田津町並みマップ

重要伝統的建造物群保存地区 嬉野市塩田津



●の番号は、修理・修復・建築順となっております。

塩田町 行事

- 4月 ●塩田お山さん祭り(吉浦神社春まつり)[4/5]
- 5月 ●走田焼の里博物館春まつり
- 8月 ●塩田夏まつり・花火大会
- 11月 ●塩田くんち(丹生神社例祭)[11/2・3]
 - 塩田津ミュージアム企画展
 - 八幡宮くんち[11/3]
 - 走田焼の里博物館秋まつり
- 12月 ●八天神社お火つき・例大祭[2番末]
- 2月 ●走田焼の里博物館 ひなまつり展

○毎月第2・第4日曜日
塩田津軒先市
(8:00~10:00)
場所:塩田津町並み交流集会所周辺

お食事処・喫茶店

- | | | |
|--------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 割烹 鯉屋 TEL 0954-66-2012 | 5 カフェ 楽家[不定期] TEL 0954-66-5635 | 9 割烹 ひろせ屋 TEL 0954-66-2050 |
| 2 浪花寿し TEL 0954-66-2350 | 6 塩田津ミュージアム TEL 0954-66-3753 | 10 立喰うどん 岳の信太郎めん TEL 0954-66-2117 |
| 3 割烹 花佳 TEL 0954-66-2039 | 7 味彩 山幸 TEL 0954-66-2163 | 11 カフェ 居蔵家 TEL 0954-66-2071 |
| 4 好来軒 TEL 0954-66-2912 | 8 小菊屋(たこ焼・焼そば) TEL 0954-66-2806 | |

絵:池田 邦治

石工職人の技



歩き始めたえびす像 仁王像(常在寺参道) 仁王像(本應寺)

伝統的建造物等(保存修理完了物件)

塩田津は、古き良き文化と歴史が色濃く残る町です。町を散策し、町並みを眺めながら、昔年の空気を感じてみませんか?



1 常在寺(和銅元年/708) 2 塩田大明神(慶応年間)



3 野嶋家(江戸末期) 4 香月家[楽家](江戸後期) 5 吉富家(寛政2年/1790)



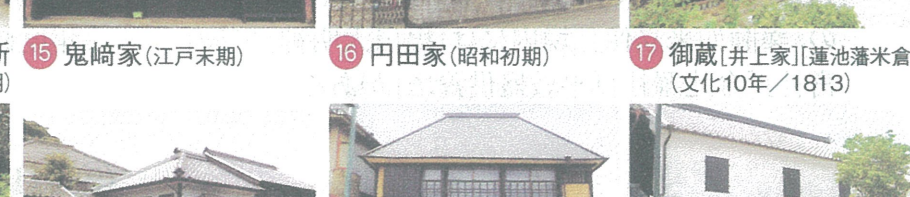
6 杉光陶器店(安政2年/1855) 7 西岡家(安政2年/1855) 8 小野原家(江戸末期)(大正一昭和の増築)



9 野口家付属屋(明治40年) 10 筒井家(大正8年/1919) 11 小林家[元共同浴場]



12 石垣 石階段 生蓮寺(浄土宗)(明徳2年/1391)



13 塩田津町並み交流集会所[旧下村家](街道側:江戸時代)



14 塩田津町並み交流集会所[旧検量所](昭和20年代初期)



15 鬼崎家(江戸末期)



16 円田家(昭和初期)

塩田津町並みの主な建築物・構築物

塩田津の町並み

塩田津は長崎街道の宿場町として、また有明海の干満の差を利用して発達した川港として栄え、江戸時代には、蓮池藩の西目の中心でもあった。街道沿いには大小の町屋が軒を連ねていた。町の後方の中腹には4つの寺が位置し、頭人役所や塩田学寮があり、塩田郷の中心地として繁栄したところである。江戸期後半から火災や風水害に強い漆喰造りの「居蔵家」と呼ばれる大型町屋ができ重厚な町並みが形成され、また塩田石で作られた仁王像や恵比寿像などの石造物が町並みの各所にみられ、現在も歴史的な景観が残されている。このため平成17年には重要伝統的建造物群保存地区に選定され、以後町並みの修理・修景が進められている。

① 常在寺

真言宗の寺で塩田では最古の寺。寺伝によると京都仁和寺の末寺で和銅元年(708年)に行基により開山。参道中段には、文政8年(1825年)地域の庄屋達から寄進された像高2.4mの仁王像(市重要文化財)が立っている。阿吽の顔いかめしく細かいところまで彫刻されている。これは塩田石工筒井幸右衛門とその他5名の作。本尊は平安時代作の「薬師如来立像」。境内には「塩田大明神」「二の宮社」「金比羅社」「平敦盛供養塔」がある。

◆ タナジ

町並みの民家裏から川に降りる石の階段と洗い場で、日常、生活に使われていた。浦田川河畔にみられる。

◆ 札の辻

長崎街道の曲がり角にある江戸時代の「高札場」跡。幕府、本藩の布令を高札にして立てた場所。

⑤ 吉富家(塩田津ミュージアム)

塩田津で最も古い居蔵屋で寛政2年(1790年)建築。大戸やすりあげ戸に当時を垣間見ることができる。(平成19年度修理)

⑥ 杉光陶器店(国登録有形文化財)

安政2年(1855年)建築の三階建ての大型居蔵造り。平成10年、妻入りの主屋と一～三の蔵まで国登録有形文化財になっている。座敷と次の間は意匠的に優れた職人の技を見ることができる。三の蔵は明治43年から大正5年まで志保田銀行前身の金融機関がおかれていた。(平成21～22年度に修理)

⑦ 西岡家(国指定重要文化財)

安政2年(1855年)建築の二階建ての大型居蔵造りの町屋。天保15年(1844年)陶器商鑑札を受ける。廻船問屋として財をなし、天保14年(1843年)には本應寺の石畳を寄進した。建物の出入り口の潜り戸のついた吊り大戸やすりあげ戸、内部の大黒柱、各部屋の部材や意匠はすばらしく、天井の仕上げや欄間の組子、ふすま絵、釘隠し、床の間天井の漆塗りの仕上げなど貴重な造りとなっている。(平成20～22年修理)

⑧ 小野原家

19世紀前後に建築の居蔵造りの町屋。トンバイを用いた腰壁や住宅の煙出しが特徴。(平成18年度修理)

⑨ 野口家(付属屋)

昭和初期まで隣接する登り窯である丸田窯の作業小屋として使用されていた。乾燥棚なども当時のまま残されている。製陶に関する作業小屋が残っているのは貴重。(平成19年度修理)

◆ ほんのうじ 本應寺

天正14年(1586年)創建の浄土宗の寺。かつては「本陣」として利用され、藩主や役人が宿泊した書院は今も残されている。1732年に建立された山門の横には寛延2年(1749年)寄進された一対の石造の仁王像が立っている。天保15年(1844)年に建立の芭蕉塚や塩田の名工筒井幸右衛門作の美しい阿弥陀如来もある。

◆ おくら 御蔵

文化10年(1813年)には藩の米蔵も作られた。往時には3棟あったという。蓮池藩の西目の年貢米が納められた。米蔵からの通りを「御蔵馬場」、荷揚げ場を「御蔵浜」と言い、今もこの呼び名が残っている。この地に、陶磁器職工養成所ができたため、現在地に移築された。(平成19年度修理)

◆ しょうれんじ 生蓮寺

明徳2年(1391年)創建の浄土宗の寺。蓮池藩祖鍋島直澄公より3升入りの柄杓が寄進された。ご本尊の阿弥陀如来立像は見事な彫刻が施されている。享保9年(1724年)建立の薬師如来像も祀られ、安産祈願の参拝者もある。

⑬ 下村家

草葺きの町屋で、屋根がコの字型(くど造り)になっている。二階の天井は船底型で白漆喰の仕上げである。建築年代は江戸期であるが、詳しくは不明。江戸末期には菟蓐屋、大正時代は運送業、昭和に入って自転車屋となる。2代目の下村龍吉さんは塩田町の簡易水道の普及に尽力された。市指定文化財(平成21年修理)

⑭ 塩田津町並み交流集会所(旧検量所)

昭和24年磁器の原料となる天草石(陶石)の集荷施設として建設され肥前陶土工業協同組合の事務所として利用された。天草石は船で運ばれ、塩田川の上流にある水車で陶土に粉碎され、有田、波佐見、三河内の焼き物の原料になっていた。昭和39年(1964年)には船から車に積まれる走行クレーンが設置され、さらに車ごと重量を量る検量所も設置された。河川改修や鉄道の開通で船での運搬はなくなり、昭和51年には川港としての役目を終えた。(平成20年修理)

⑮ 鬼崎家

「居蔵造り」の大型町屋で、19世紀初期にまで遡る古い家屋。昭和の初期は魚市場として使われたこともある。平成18年修理。

⑯ 円田家

昭和初期の建築で、洋風2階建、通りに面して立つ土蔵造りの蔵、洋風建物につながる座敷の3棟である。藤津碍子の事務所であった。(平成19年度修理)

◆ りゅうでんじ 立傳寺

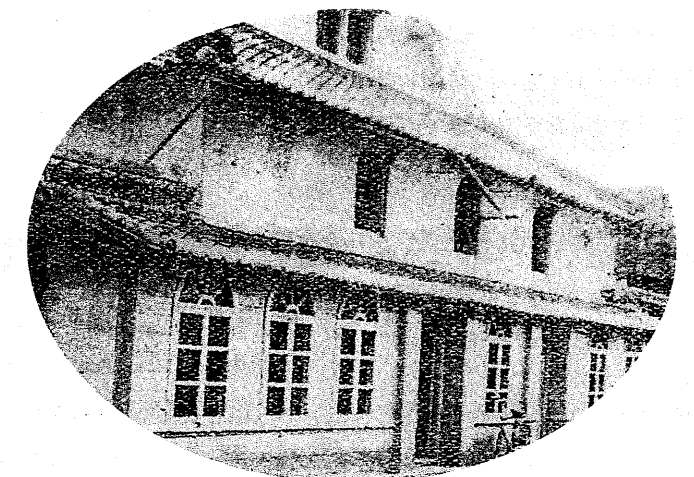
天正12年(1584年)創建の浄土真宗の寺。創建時に作られた塩田石工筒井藤右衛門作の水盤がある。塩田津寺子屋発祥の寺。

⑳ 江口家

建物は19世紀初頭の建築で天保15年(1840年)頃に座敷を新築し、表構えを改造している。江戸時代蓮池藩の上納米を取り扱う米商人で屋号は「米屋」、藩の巡検使の案内もしていた。米屋5代目江口平兵衛が、日常生活を18年間「天相日記」に書き記しており、当時を知る貴重な文献となっている。(平成23年度修理)

㉑ 小柳家・田崎家

19世紀前期の建築で、大壁造り入母屋棧瓦ふき3階建てで塩田津最大級の居蔵造りである。きわめて良質な座敷・次の間が残っており、土間上部には3階床下までの高い吹き抜けが作られている。当初は本釜屋といい、呉服屋として繁盛した。その後明治43年には筑後柳河の(株)柳河商業銀行の営業権を引受けた(株)塩田銀行が入った経緯がある。(平成24年度修理)



明治43年当時の(株)塩田銀行